

角田（一九八一）は、生薬の薬理学を専攻し、後に弘前大学名誉教授、国立弘前病院名誉院長を務めた人で、マコモの葉、すなわち菰葉について薬理学的研究をおこない、その成果を『驚異の原生真菰健康法』という普及書に、多くの体験談をまじえてまとめた。以下は同書からの引用である。

当時、神奈川県総合リハビリテーションセンター七沢病院診療部長をしていた和合（一九七八）は、医療専門誌『最近の医学』に、マコモの効能を体験談として発表した。そのころ、和合は原因不明の偏頭痛に悩まされていて、マコモ粉末を継続的に服用することによって完治したという。その効果について、（一）腸内細菌叢のコントロール、（二）アミン、とくにヒスタミン産生の抑制、（三）精神安定、（四）解毒などの作用を挙げている。

角田は、八年にわたるマコモの薬理学的研究の結果から、マコモ粉末について、つぎの七項目の薬理学的特徴を明らかにした。

（一）毒性がない。マコモの熱水抽出エキスを皮下、経口投与したが、死亡例はゼロ、いわゆる急性毒性は認められなかつた。

（二）血圧をコントロールする。高血圧症ラットで脳卒中、心臓発作を予防し、コレステロール値を正常にした。

（三）ホルモンの分泌を旺盛にする。とくに副腎皮質細胞の肥大増殖、リンパ球の増大とガングリオ細胞の働きを積極的に抑制した。

（四）免疫、抵抗力が増大する。動物実験の結果では、通常の補体価（免疫、抵抗力を発現する体液成分の量）は三〇～五〇であるのに対してもマコモエキスを与えた場合の補体価は八八になつた。

（五）血液をきれいにする。マコモの纖維質の働きによって血管につまつた老廃物や毒素が排除され、血行がよくなつた。それまで濁っていた血液をきれいにする作用があることが確認された。

（六）悪性腫瘍の増殖を抑える。マコモエキスをモルモットに注射したところ、ほとんどの腫瘍が増殖せず、明らかに腫瘍を抑制していることがわかつた。マクロファージ（大食細胞）が活発化し、細菌、ウイルスの感染を予防する働きが認められた。

（七）血糖値を低下させる。糖尿病の主たる要因は自分の力でインシュリンの分泌を旺盛にできないことから、血糖値が高くなり、糖尿病を招くのである。マコモエキスを与えたところインシュリンの分泌が旺盛になつて、血糖値を下げる作用が認められた。

マコモの用法として、（一）マコモ粉末をそのまま服用、またはお茶代わりに飲む。（二）熱水抽出エキスの服用。（三）外用の場合は、マコモ粉末をそのまま、または水で少しかために練つて皮膚、粘膜の炎症部に塗布または湿布する。（三）マコモ粉末三〇～五〇グラムを入れてまぜたマコモ風呂はよく温まり、皮膚を清潔にし、水虫のような白癬症によく効く。